

〔延喜式造酒^{四十}〕造酒雜器

中取案八脚^略○中 水麻筥廿口、小麻筥廿口、^{中略}巳上供奉酒料○中略

右造酒料支度、及年料節料雜器、並申省請受、

〔兔園小說^{十一集}〕丙午丁未

明くれば七年^明○天 丁未の春より米穀の價登躍して、はじめは錢百文に白米六合を換ふと聞えしが、五合に至り四合に至り、五六月に及びては三合になるものから、それをすら買はんとほりするもの容易くは得がたかりき、^略○中 豪家と唱へらる、三井越後の呉服店、糸店、兩替店、ともに琉球芋を多く蒸して半切の桶に入れ、店の四隅便宜の處にする置きて、十五歳以下の小厮の走り廻りをするものに、恣にとり啖せしかば、日毎に穀をはぶきしこと、大かたならずと聞えたり、

〔書言字考節用集^七〕米^ヲ浙^{カシ}桶^ヲ

〔世間子息氣質^一〕取付世帯は表向を張つて居る太鼓形氣

亭主は倍うつての直打書^略○中 米かし桶六十五匁、

〔萬の文反古^二〕京にも思ふやうなる事なし

香の物桶の鹽入時をかまはず、あたら瓜なすびを棄させ、^略○下

〔世間母親容氣^二〕嫁が姑と形風流の當言

竈の下を飯炊男次第薪の費に飯は焦付かせ、濡手を糠[○]味[○]噌[○]桶へ入れても、叱人なければ、香物は損じゆき、

〔玉露叢^{十三}〕一同年[○]寛永^{十六年}ニ江戸大火、此時御城回祿ス、御城御普請出來シテ、御移徙ノ時、御一門

及ビ諸大名衆ヨリ献上物ノ品々、^略○中

一唐金御手桶 十

石川主殿頭忠綱[○]中